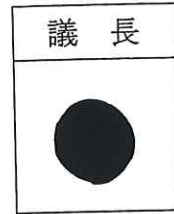



(書式3の2) 実施報告書



令和2年7月27日

(議 員 名) 植原 泰 

実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

実施項目の名称	坂出市議会会派合同研修会
実 施 場 所	坂出市役所 4階 委員会室
実 施 日 時 (期 間)	令和 2 年 7 月 21 日 (火曜日) 10 時 00 分 ~ 11 時 40 分
参 加 議 員 名	植原 泰
実施内容の概要	議会活性化や資質向上を図るため、全会派及び無所属議員3名の共催により会派合同研修会を開催した。 内容等は別紙のとおり。

※ 参考となる書類があれば、添付して下さい。

研修会日時：令和2年7月21日 午前10時

参加者：植原 泰

講師：堤 英敬（香川大学法学部教授）

演 題：「今、市議会に何が求められているか」

市民生活に近い存在にある地方議会は、市民からの声が最も集まってくる場所である。そこに、市議会議員に過大な実務遂行能力を期待される方がおられるのも事実である。市民に近い存在であるだけに地域の状態が判っているから何とかできると考えられているのだと思う。その身近な存在というのが市議会議員への期待する部分であり、市民の声にどう応えていくかが仕事である。ただ、施策を提案しても実施して行くのは行政側である点や具体的な予算の確保方法に課題が残るのも事実で、行政との連携も重要となってくる。議員の仕事は、やりがいのある仕事ではあるが、市民から見えにくく、ニュースでもお金と議員の関係についての問題が取りざたされることが多く、何か悪いことをするために議員になっているかのようにも捉えられがちである。また、4年に一度の選挙によって落選すると、その後の生活への補償もないために地方議員への成り手も減ってきている。特に若手の成り手は激減しており、問題となっている。様々な考えを持った方々の集合体である議会は、多方面から物事を見ていき、より良い結論を導き出せる議会でなければならない。そうでなければ、行政サイドと同じ目線になりかねないのである。特に若い方に議員に立候補してもらうためにも、今の選挙制度を見直していく必要がある。

議員である私たちは、市民からの期待に対してどうしていけばいいのか。私は行政の職員は日々の仕事に追われており、他の自治体の取り組みに目を向けることは難しく、ネットで見たり、電話で話したりすることが中心となっているのではと考えている。それに対して自由に動ける議員は、現地に赴き様々な目線で取り組みを見て、市民の声と照らし合わせて他の自治体の取り組みを自分の自治体にフィードバックさせてゆかねばならないのではないかと考えて今日まで勤めてきている。そうでなければ政務活動費は、何の価値もないものになると感じている。しっかりと市民に還元できる使い方をすることで市民への負託に応えていけると考える。